

ご議論いただきたい主な論点（第4回）

研究開発成果等が不確定な段階での研究開発

1. このような研究開発についても今回整理を進めている影響メカニズム等を前提として理解すればよいか？それとも、別途特有・固有のアプローチが必要か？（資料3参照）
2. 企業結合等による資源配分の最適化に関し、研究開発の特性に応じた集約化⇔重複維持の選択の関係性が指摘されるどころ、本論点の考え方とも関連するのではないか？
3. 同様に、多様性等の視点からは、例えば以下のような考え方を採ることは適切・必要か？
 - ・専有可能性に関し、（研究開発主体の多様性担保につながる）競合企業の数・能力を保持する見地から、スピルオーバーの側面をより重視する
 - ・製品市場における競争状況を通じた研究開発インセンティブへの正負の影響に関し、競合企業（研究開発主体）の研究開発インセンティブ低下の問題をより加重する
4. 企業結合等の結果、多様性等の面が減退する可能性がある場合、競争当局として、イノベーション活動の望ましい在り方を客観的に評価し、それに基づき介入することは適切・必要か？また、そのような評価を競争当局が行う際の現実的課題は何か？
5. 多様性等の価値への悪影響を観測する上では、どのような点に着目すべきか？

例）研究開発主体の数、それら主体の質（イノベーターか）、研究開発上重要な投入物（人材、資金、技術・特許、設備、データ等）、潜在的顧客へのアクセスビリティ

スタートアップの買収に係る論点

イノベーションの文脈においては、近年、スタートアップの買収に係る問題が注目されているところ、競争政策上の論点としては、主に、①いわゆるキラー買収に係る懸念、②コングロマリット型企業（特にビッグテック）のエコシステムにおける市場支配力強化につながる懸念、の2つの視点が議論されている（資料4参照）。

この点、イノベーションへの影響の観点からは、

1. いわゆるキラー買収的な特性を有する企業結合のイノベーションへの影響についても、一般的な企業結合に係る影響メカニズム等を念頭に捉えればよいか？それとも、追加的に考慮すべき特有・固有の影響メカニズムや着目すべき要素はあるか？
2. とりわけデジタルプラットフォーム領域で頻繁に見られるコングロマリット型・エコシステム型企業によるスタートアップ買収がイノベーションへ及ぼす影響について、その影響メカニズム（セオリーオブハーム）をどのように捉えるべきか？
3. 買収されるスタートアップにはいまだ製品化に至らず研究開発段階の企業も存在するところ、こうした買収は潜在的競争関係に着目して水平型と位置付けるか、それとも混合型と捉えるべきか？同様に、コングロマリット型・エコシステム型企業によるスタートアップ買収についてはどのように捉えるべきか？
4. バイアウト効果について、特定の企業結合案件に係る影響評価において、どのように位置付けるべきか？

イノベーションへの影響メカニズム等の検討

特に垂直型企業結合・混合型企業結合に関して、

1. 既存の経済学的な理論・実証研究等から抽出された、企業行動がイノベーションへ与える正負の影響メカニズム（資料5-1、資料5-2参照）や、それら影響メカニズムに基づく具体的態様を左右する要素（資料6-1、資料6-2参照）について、各事項の考え方をどのように評価・採用するか？
2. 上記抽出された事項のように文献等で必ずしも明示されていないものの、理論的又は経験的に妥当すると考えられるものとしてどのようなものがあるか？（例：市場構造要因、産業ライフサイクル、大学等の外部研究主体の存在、補助金・資金調達環境、人材供給環境）
3. 個々の行為類型ごとの影響メカニズムや要素に係る考え方について、他の行為類型でも妥当したり、類型横断的に敷衍して妥当すると考えられるものとしてどのようなものがあるか？
4. （上記1～3を踏まえて）影響メカニズムや要素の全体的な構成の在り方をどのように考えるか？また、その際、影響メカニズムや要素それぞれの事項間で、イノベーションへの影響度合いや重要度・先後関係といった量的インパクト、及び事項間の相互関係性をどのように考えるか？